



くすりと健康

一般社団法人
神戸市薬剤師会

ロタウイルスワクチン

ロタウイルス胃腸炎については以前に紹介したように、乳幼児に多い嘔吐下痢症です。予防ワクチンは、2011年11月に「ロタリックス」が、2012年1月に「ロタテック」が承認されています。さて…どちらを接種すべきでしょうか…。

接種時期と回数

ロタウイルスワクチンは飲むタイプの生ワクチンです。どちらも、生後6週から接種できます。

ロタリックスは遅くとも生後20週までに1回目を接種し、4週間隔で2回接種します。ロタテックは遅くとも生後24週までに1回目を接種し、4週間隔で3回接種します。また、ロタリックスは接種後10分以内に嘔吐した場合は再接種できません。ロタテックは再接種できません。

ワクチンの型と有効性

ロタウイルスには100種類以上

の血清型があり、抗体ができず何度も感染します。ロタウイルスの抗原はP型とG型に分類され、世界分布はP型ではP8型が、G型ではG1・G2・G3・G4・G8・G9型がほとんどです。ロタリックスは、一番流行して重症化しやすいP8型1種類を弱毒化した1価ワクチンです。交差免疫(※)によってほかの種類のロタウイルスにも有効です。ロタテックは、P8型を含むG1・G2・G3・G4型の5種類を弱毒化した5価ワクチンです。

では、今のところ問題はありませんが、ロタリックスには易刺激性という副反応があり、刺激に敏感になるなど機嫌が悪くなるかもしれません。ロタテックは国内ではまだ報告がないようです。どちらも、嘔吐や下痢などがまれにあります。吐瀉物としゃうぶつや糞便中の生ワクチンによる水平感染を防ぐためにも手洗い、うがいなど感染対策も大切です。

今のところ両者とも嘔吐下痢症の重症例を約90%以上減らすなど、ほぼ同じ効果を示しています。

ワクチンの安全性

現時点で安全性は高く、WHO(世界保健機関)はロタウイルスワクチンを子どもの最重要ワクチンのひとつに指定しました。ロタシールド(初代ロタウイルスワクチン)は、副作用である腸重積症の報告が増加し、発売中止になりましたが、接種時期が決められている現在のワクチン

「ロタリックス」も「ロタテック」も細かいところで一長一短ありますが、どちらも決定的な欠点はないようですが、どちらかしか採用していない病院もあり、選択できるケースは少ないかもしれません。

※ 交差免疫：特定のウイルスに対する免疫を獲得することで、似たウイルスにも予防効果を示すこと。

(長田区 ふれあい薬局板宿)

原 克樹